



# 国際音楽祭 NIPPON 2022 芸術監督: 諏訪内晶子

感動を紡ぐ: トップ・クオリティの追求 心をつなぐ: 演奏を通じた社会貢献 未来を創る: 次世代への継承

国際音楽祭NIPPONは、様々な機会を通して、豊かな音楽の世界を多くの方々と共に共有できる場を創ってまいります。

## ■ 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル J.S.バッハ: 無伴奏ソナタ&パルティータ 全曲演奏会

Akiko Suwanai Violin Recital J.S.Bach Sonatas and Partitas for Solo Violin, BWV1001-1006

**[名古屋]** 2月11日(金・祝) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 11 Fri. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

2月13日(日) 14:00 名古屋 三井住友海上しらかわホール

February 13 Sun. 14:00 Nagoya MS&AD SHIRAKAWA HALL

**[東京]** 2月16日(水) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 16 Wed. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

2月18日(金) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 18 Fri. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

## ■ 尾高忠明指揮/NHK交響楽団 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

Conductor: Tadaaki Otaka NHK Symphony Orchestra, Tokyo Akiko Suwanai (Violin)

2月21日(月) 19:00 東京 東京オペラシティ コンサートホール

February 21 Mon. 19:00 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

## ■ 公開マスタークラス(ヴァイオリン部門) Open Master Classes (Violin)

3月3日(木)・4日(金) 横浜 フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

March 3 Thu. / 4 Fri. Yokohama FLIA HALL

## ■ ~諏訪内晶子&フレンズ~コンサート in 陸前高田(東日本大震災復興応援)

Concert in Rikuzentakata Supporting Recovery Efforts after the Great East Japan Earthquake

3月6日(日) 14:00 陸前高田 陸前高田市民文化会館(奇跡の一本松ホール)

March 6 Sun. 14:00 Rikuzentakata Rikuzentakata City Cultural Hall (Kisekinoipponmatsu Hall)

## ■ 諏訪内晶子 室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

Akiko Suwanai Chamber Music Projects

**Akiko plays CLASSIC with Friends**

3月9日(水) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 9 Wed. 19:00 Tokyo Kioi Hall

**Akiko plays MODERN with Friends**

3月11日(金) 19:00 東京 紀尾井ホール

March 11 Fri. 19:00 Tokyo Kioi Hall

## ■ ミュージアム・コンサート Museum Concert

3月12日(土) 19:00 名古屋 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー

March 12 Sat. 19:00 Nagoya Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby

## ■ ブラームス 室内楽マラソンコンサート Brahms Chamber Music Marathon Concert

3月13日(日) 東京 東京オペラシティ コンサートホール

March 13 Sun. Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

[第1部] 10:30 [第2部] 13:30 [第3部] 19:00

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社/陸前高田市民文化会館(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

共催: [愛知] 中日新聞社/CBCテレビ [岩手] 岩手日報社/IBC岩手放送 [横浜] フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

後援: フィンランド大使館/東海新報社(東日本大震災復興応援コンサートのみ)

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力: ユニバーサル ミュージック/トヨタ産業技術記念館(ミュージアムコンサートのみ)

企画制作: ジャパン・アーツ プログラム監修: 沼野雄司/船木篤也

マネジメント: [東京] ジャパン・アーツ [愛知] クラシック名古屋

制作協力: [岩手] 岩手県文化振興事業団



INTERNATIONAL  
MUSIC FESTIVAL  
NIPPON



# 国際音楽祭 NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

ブラームス 室内楽マラソンコンサート  
3月13日(日) 東京オペラシティ コンサートホール

世界中が新型コロナウイルス感染症の影響による「禍」に突入し、はや2年の月日が経とうとしています。新変異株の出現もあり、様々に制限された日々が長く続く中で、これまで気に留めなかった「日常の出会い」が、私たちにとってどれほど大切なものであるかを、切実に感じる時間でもありました。

国際音楽祭NIPPONは、音楽を通した「出会い」の場として、「感動を紡ぐ」場であってほしいと願ってまいりました。演奏をお聴きいただくお客様、未来を担う若い方々と、かけがえのない演奏空間を共に過ごし、特別な「経験＝体感」を共有できることを心待ちにしております。

会場に足をお運び下さった皆様、この度も変わらぬご支援をいただいております企業の皆様、関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2022  
芸術監督  
諏訪内 晶子

It has been nearly two years since the world was plunged into crisis by the Covid-19 pandemic. With the emergence of new variants and prolonged restrictions in our daily lives, this has also been a time when we have become keenly aware of the great importance of the “everyday encounters” we previously took for granted.

It has always been my hope that the International Music Festival NIPPON, as a setting for “encounters” through music, will be a space for the creation of emotion and inspiration. I am looking forward to spending time together in the irreplaceable performance space and sharing special, genuine experiences with everyone who comes to hear the performances, as well as the young people who are the future of music.

I would like to express my deepest gratitude to those who have come to hear the performances, to the corporations who have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

**Akiko Suwanai**  
Artistic Director  
International Music Festival NIPPON 2022



# 国際音楽祭 NIPPON 2022

芸術監督: 諏訪内晶子

## ブラームス 室内楽マラソンコンサート

Brahms Chamber Music Marathon Concert

3月13日(日) 東京 東京オペラシティ コンサートホール

March 13 Sun. Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

### <オール・ブラームス・プログラム>

#### [第1部] 10:30開演

ピアノ三重奏曲第1番 ロ長調 Op.8 (ゴトニ/中木/菊池)

Piano Trio No.1 in B major, Op.8

ピアノ三重奏曲第2番 ハ長調 Op.87 (葵トリオ)

Piano Trio No.2 in C major, Op.87



ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 Op.101 (米元/上野/阪田)

Piano Trio No.3 in C minor, Op.101

ホルン三重奏曲 変ホ長調 Op.40 (日高/小林/菊池)

Trio for Violin, Horn and Piano in E-flat major, Op.40

#### [第2部] 13:30開演

弦楽六重奏曲第1番 変ロ長調 Op.18 (米元/小林/村上/田原/辻本/中木)

String Sextet No.1 in B-flat major, Op.18

弦楽六重奏曲第2番 ト長調 Op.36 (ゴトニ/諏訪内/鈴木/田原/上野/辻本)

String Sextet No.2 in G major, Op.36



ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 Op.25 (葵トリオ/鈴木)

Piano Quartet No.1 in G minor, Op.25

ピアノ四重奏曲第2番 イ長調 Op.26 (ゴトニ/田原/中木/高木)

Piano Quartet No.2 in A major, Op.26



ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 Op.60 (米元/鈴木/辻本/阪田)

Piano Quartet No.3 in C minor, Op.60

ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op.34 (米元/田原/葵トリオ)

Piano Quintet in F minor, Op.34

#### [第3部] 19:00開演

弦楽五重奏曲第1番 ヘ長調 Op.88 (ゴトニ/小林/田原/村上/上野)

String Quintet No.1 in F major, Op.88

弦楽五重奏曲第2番 ト長調 Op.111 (米元/小川/鈴木/村上/辻本)

String Quintet No.2 in G major, Op.111



クラリネット三重奏曲 イ短調 Op.114 (金子/中木/阪田)

Trio for Piano, Clarinet and Cello in A minor, Op.114

クラリネット五重奏曲 ロ短調 Op.115 (金子/諏訪内/ゴトニ/鈴木/辻本)

Clarinet Quintet in B minor, Op.115

#### ■出演者

諏訪内晶子(ヴァイオリン)

Akiko Suwanai, Violin

マーク・ゴトニ(ヴァイオリン)

Mark Gothoni, Violin

米元響子(ヴァイオリン)

Kyoko Yonemoto, Violin

小林美樹(ヴァイオリン)

Miki Kobayashi, Violin

鈴木康浩(ヴィオラ)

Yasuhiro Suzuki, Viola

田原綾子(ヴィオラ)

Ayako Tahara, Viola

村上淳一郎(ヴィオラ)

Jun-ichiro Murakami, Viola

辻本玲(チェロ)

Rei Tsujimoto, Cello

中木健二(チェロ)

Kenji Nakagi, Cello

上野通明(チェロ)

Michiaki Ueno, Cello

阪田知樹(ピアノ)

Tomoki Sakata, Piano

菊池洋子(ピアノ)

Yoko Kikuchi, Piano

高木竜馬(ピアノ)

Ryoma Takagi, Piano

葵トリオ<秋元孝介(ピアノ)、小川響子(ヴァイオリン)、伊東裕(チェロ)>

Aoi Trio<Kosuke Akimoto, Piano/Kyoko Ogawa, Violin/Yu Ito, Cello>

金子平(クラリネット)

Taira Kaneko, Clarinet

日高剛(ホルン)

Takeshi Hidaka, Horn

※当初予定していた出演者に変更がございます。

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社

後援: フィンランド大使館 協力: ユニバーサル ミュージック

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

船木 篤也(音楽評論) Atsuya Funaki

ヨハネス・ブラームス(1833–1897)の創作を代表するジャンルとして、何を挙げたらよいだろう? よく親しまれているという点では、交響曲や協奏曲といった管弦楽曲にならうか。けれども、量と質で見るとなれば、合唱曲や歌曲といった声楽曲も、そして何より室内楽を忘れるわけにはいかない。ワーグナーも言ったように、ブラームスは「室内楽の作曲家」なのである。

もっとも、楽劇の巨人ワーグナーは、これを皮肉で言ったのであって、室内楽に注力することは、19世紀の後半において、たしかに時代遅れな面があった。音楽はもはや王侯貴族への献呈物ではなかったし、家庭の楽しみとしての室内楽は「芸術音楽」ではなかったし、コンサートホールは巨大化しつつあり大きな音のするものが求められた。市民文化の発達するなかで、室内楽は、ちょっと行き場に困ってしまったのだ。だからこそ、と言うべきだろう、ブラームスは持てる技とセンスをすっかり注いで、この古典的分野を活用・改新しようとしたのである。

この「マラソン・コンサート」では、演奏時間を考慮して、全3曲の弦楽四重奏曲とデュオ作品、すなわち全3曲のヴァイオリン・ソナタ、全2曲のチェロ・ソナタ、全2曲のクラリネット・ソナタを割愛してある。それ以外はすべて揃っており、同じ編成の楽曲をまとまった形で聴けるよう、かつ、できる限り成立順に聴けるよう構成されている。ブラームスの作曲家としての発展と生きざまを追いながら、楽しみたい。

## ■第1部■

### ピアノ三重奏曲第1番 ロ長調 Op.8

アレグロ・コン・ブリオ / スケルツォ、アレグロ・モルト / アダージョ / アレグロ

ブラームスが残した室内楽曲のうち、作品番号付きの第1号にあたる。取りかかったのは1853年の夏、まだ無名だった20歳のとき。ローベルト&クララ・シューマン夫妻宅を初めて訪ねる少し前のことだ。しかし同年の秋にはもう、シューマンが公表した激賞文をきっかけに、ブラームスの名は楽壇に知れ渡るようになる。そんな中、本作は翌年に完成し、出版を見た。もっともその間、シューマンは自殺未遂を起こし、精神療養所に送られることになったのだが、室内楽曲第1号ではあるものの、現在よく演奏されるのは1889/90年の改訂稿のほうで、本日もこれを聴く。改訂は大がかりなもので、ブラームスも「作品108と呼べそう」などと言っているが、第1楽章冒頭の主題を変形して第2楽章のスケルツォ主題に再利用するなど、当初のアイデアをすっかり棄てたわけではない。

### ピアノ三重奏曲第2番 ハ長調 Op.87

アレグロ / アンダンテ・コン・モート / スケルツォ、プレスト / アレグロ・ジョコーソ

ピアノ、ヴァイオリン、チェロで構成するピアノ三重奏は、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンが、つまりウィーン古典派が定着させたフォーマットと言える。北ドイツはハンブルク出身のブラームスが、そのウィーンに活動拠点を移したのは1862年。その後、夏季の仕事場所には、しばしば保養地を選び、1880年からは

ザルツブルクより少し東にあるバート＝イシュルに好んで滞在した。本作はここで、49歳の年、1882年までに書かれた。作曲家としての地位もとうに確立され、あの立派な髭も生やすようになっていた。第1楽章。最初の主題は通常の4+4=8小節になっておらず、拍子も3拍子が安定しない。副次主題はどれだろう? いかにも渋い、ブラームス・ワールドである。第2楽章は主題と5つの変奏。第3楽章は中間部を挟んだスケルツォで、これに少しおどけた終楽章が続く。

### ピアノ三重奏曲第3番 ハ短調 Op.101

アレグロ・エネルギーコ / プレスト・ノン・アッサイ / アンダンテ・グラツィオーソ / アレグロ・モルト

交響曲も第4番まで発表し終えた1886年夏に、スイスのトゥーン湖畔で成った作。同時期に、チェロ・ソナタ第2番、ヴァイオリン・ソナタ第2番も書かれている。クララ・シューマンをして「ヨハネスの作品でこれほど私を夢中にさせたものはなかった」と言わせ、第4交響曲に的確なコメントを寄せた女友達、エリーザベト・フォン・ヘルツォーゲンベルクも、「私の知る最も簡潔明快な作品」と評した。第1楽章は、一見それと分からないが、決然とした冒頭4小節のモチーフが全体を統括している。スケルツォ楽章のあとにくるゆったりとした第3楽章は、3拍子+2拍子+2拍子の変拍子を繰り返す(途中変則あり)が、不思議と心地よい。ドイツ南部、あるいはボヘミアにも認められる民謡調である。第4楽章は、どこか第2スケルツォのおもむき。

### ホルン三重奏曲 変ホ長調 Op.40

アンダンテ / スケルツォ、アレグロ / アダージョ・メスト / アレグロ・コン・ブリオ

ピアノとヴァイオリンにホルンが加わる三重奏曲といえば、フレデリク・デュヴェルノワ(1765–1838)の作など前例がないわけではないが、誰ももっぱら本作を思い浮かべよう。ホルンはブラームスが少年時代に愛奏した楽器であった。書かれたのは32歳の年、1865年。場所はバーデン＝バーデン近郊のリヒテンタールで、近くにはクララ・シューマンの住まいがあった。この森で第1楽章の主題を思いついたという作曲者の発言が伝えられるだけで、詳しい成立背景はよく分かっていない。ただし近年の発見によれば、20歳の年に記されたあるピアノ譜が、本作第2楽章・中間部の前身を示しているという。ソナタ形式のアレグロではなく、ロンド形式のゆったりとした楽章で開始されるのがユニーク。第3楽章の悲痛なアダージョに続き、終楽章はOp.101のケースに似て、スケルツォ風。

## ■第2部■

### 弦楽六重奏曲第1番 変ロ長調 Op.18

アレグロ・マ・ノン・トロppo / アンダンテ・マ・モデラート / スケルツォ、アレグロ・モルト / ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロに各2挺を設ける弦楽六重奏曲。よくある形かと思いきや、ブラームスの前には、18世紀にボッケリーニの例が、19世紀前半にシュポアの例があるくらい。1859/60年に書かれた本作は、Op.8(第1部を参照)に次ぐブラームス2作目の室内楽曲であり、弦楽器だけの室内楽曲としては初の作となった。いきなり王道たる弦楽四重奏曲で勝負するのを避けた、とみる向きもあるが、音響上の利点、もしくはブラームスの中低音志向によった選択とも言えるだろう。チェロに2挺があれば、うち1挺はハーモ

ニーの下支え役から解放され、「旋律」を奏でやすい。全4楽章にわたり歌謡性ゆたかな、どこか牧歌的な音楽。愁いと熱情を秘めた第2楽章を、ブラームスは別途「主題と変奏 ニ短調」としてピアノ独奏曲に編曲、クララ・シューマンに捧げている。

## 弦楽六重奏曲第2番 ト長調 Op.36

アレグロ・ノン・トロppo / スケルツォ、アレグロ・ノン・トロppo / アダージョ / ポーコ・アレグロ

Op.40(第1部を参照)と並んで、1864/65年にバーデン＝バーデン近郊のリヒテンタールで書いたが、一部の構想は遅くとも1855年に始まっていた模様。ブラームスは、本作の完成をもって、かつての婚約者、アガテ・フォン・シーボルトへの思いから「解放された」と言っらしい。大学教授の娘で、相思相愛だったが、1859年に作曲家の方から約束を破棄していたのだ。第1楽章に現れる「ラ-ソ-ラー-シ-ミ」のモチーフ(ドイツ音名で a-g-a-(t)h-e)は彼女の名前を埋め込んだもの、と推測されるゆえんである。どちらかと言えば3つの音域をグループ別にイメージした第1番に対し、本作は「全体の響き」に意を注いでいる。スラヴふうの情熱が中間部ではじける第2楽章、変奏曲の第3楽章ときて、舞踊ふうの第4楽章で終わる。こちらの六重奏曲は、第1番のときと異なり、出版社さがしに苦労したという。

## ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 Op.25

アレグロ / アレグロ・マ・ノン・トロppo / アンダンテ・コン・モート / プレスト

着手の時期が不明だが、ピアノ付きの室内楽曲としてはOp.8(第1部を参照)に次ぐ2作目となる。1861年に集中的に書かれたのは確かで、ブラームスはその間、北ドイツのデトモルトの宮廷に雇われ、管弦楽団と合唱団を指導、音楽家としての経験を深めている。第1楽章の冒頭でピアノによって示されるジグザグ音形は、いわば細胞動機。いろいろに変奏され、本作を支えてゆくのだ。たとえば「間奏曲」と題された次の楽章にも、それがこだましている。もっとも、本作にはほかにも多種多様な楽想がある。ゆったりと始まる第3楽章も、変化の激しいこと。終楽章は「ツイゴイナーふうロンド」と題され、あけすけなハンガリー・タッチがある。本作はウィーンでも、高名な批評家ハンスリックが誉めるなど受けがよく、同地に定住を決める(1862/63年)上でプラス材料になったであろう。

## ピアノ四重奏曲第2番 イ長調 Op.26

アレグロ・ノン・トロppo / ポーコ・アダージョ / スケルツォ、ポーコ・アレグロ / アレグロ

先の第1番Op.25と同じ頃に書かれた、その姉妹作。ほの暗い情熱がほとばしるト短調の第1番に対し、こちらは明るく伸びやかなイ長調と、コントラストの明快なカップルだ。「人気」という点では第1番にひけをとってきたが、ブラームス自身は、そして何人かの友人は、むしろこちらを評価した。クララ・シューマンもその一人で、とくに第1楽章は「より滑らかだ」としている。その冒頭楽章。たいいどこかしらで3連符がゆらめいており、主要主題も、副次主題も、その点で似ている。第2楽章は、とても謎めいていて魅力的。旋律が美しい弧線を描くホ長調の部と、ピアノの素早い分散和音が不気味なロ短調の部を並置する。その両部を、弦楽の眩くような4音モチーフが縫い合わせるのだ。フィナーレのような第3楽章が終わると、本当のフィナーレが来る。

## ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 Op.60

アレグロ・ノン・トロppo / スケルツォ、アレグロ / アンダンテ / アレグロ・コモード

室内楽創作の「前期」を締めくくる本作は、1875年に完成しているが、元となった曲はこれより20年前、22歳の年に書かれている。恩師シューマンがまだ存命中で、その妻クララに叶わぬ恋情を抱いていた頃だ。おそらく、前半2楽章が当時のものの改作で、後半2楽章が新しい。ブラームスは本作の表紙に「ピストルを突き付けられた頭部」を載せるとよいと言ったが、若き日の絶望を思い出していたのだろうか? 第1楽章冒頭。ピアノの衝撃音に続くヴァイオリンの下行短2度は、いわゆる「ため息」の音型。悲劇性は、同じハ短調の第2楽章でさらに増す。第3楽章は一転、伸びやかなホ長調のチェロの歌で開始。終楽章でふたたびハ短調となり、焦燥に駆られた「運命の動機」と、たおやかなコラル風の楽句が交代する。最後はハ長調だが、どこか無理やりな幕切れといった感じである。

## ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34

アレグロ・ノン・トロppo / アンダンテ・ウン・ポーコ・アダージョ / スケルツォ、アレグロ / ポーコ・ソステヌートーアレグロ・ノン・トロppo

いまでこそピアノ五重奏曲は多く存在するが、ブラームスの前には、彼の恩師シューマンの作(変ホ長調Op.44, 1842年)があったくらい。ではブラームスは師にならってそれを書こうとしたのかといえば、さにあらず。着手した1862年当初は、まだ弦楽五重奏曲だった。しかし、クララ・シューマン、ヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒムらの批判を受けて、これが2台のピアノのためのソナタに書き直され、1864年になって今の形となった。ブラームスが故郷ハンブルクを去ることを決め、ウィーンに定住し始めた頃の話だ。雄大かつ憂いをたたえた、全曲中最長の第1楽章は、和声的にも野心的。ゆっくりな第2楽章には、サロン音楽的なムードもほんのりと。激越なハ短調のスケルツォ楽章を経て、冥想(序奏)とハンガリーふう情趣(主部)の対比がユニークな終楽章へ。

### ■第3部■

## 弦楽五重奏曲第1番 へ長調 Op.88

アレグロ・ノン・トロppo・マ・コン・プリオ / グラーヴェ・エド・アパッショナート / アレグロ・エネルギーコ

本マラソン・コンサート中、ブラームスの室内楽「後期」の作と言えば、Op.87(第1部を参照)以降のものということになる。ソナタ形式の応用と拡大。通常の「主題と変奏」とは別に、動機レベルの小さな構成要素を変奏し発展させてゆく技法。それらをモノにした後の創作である。さて、弦楽五重奏曲だが、これにはモーツァルトの作をはじめ、多くの先例がある。ブラームスも、ヴァイオリンとヴィオラに各2挺、それにチェロ1挺を加えた、先例で最も一般的な形をとる。1882年にバート＝イシュル(第1部Op.87を参照)で書かれた本作に、苦闘の跡がみられないのは、すでにOp.34(第2部を参照)の創作過程でこの形と取り組んでいたからだろうか。3楽章形式。第2楽章が、ゆっくりな部とスケルツォの部の両方を取り込んでおりユニーク。終楽章にはベートーヴェンばりのフーガがある。

## 弦楽五重奏曲第2番 ト長調 Op.111

アレグロ・ノン・トロップ・マ・コン・ブリオ / アダージョ / ウン・ポーコ・アレグレット / ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロップ・プレスト

---

1890年、パート=イシュルでの作。ブラームスは本作を楽譜出版のジムロック社に送る際、これが「最後の作品」だと伝えた。作曲をもうやめる時である、と。この事実をとらえて、伝記作家たちは「晩年の諦念」についてうんぬんするが、この時点でまだ57歳である。Op.88に加え弦楽五重奏曲をもう一つ書いたのは、友人でハンガリー出身の著名なヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムの勧めもあつたこと。中低音好みのブラームスらしく、チェロが、他の4人のザワザワとざわめくなか、飛び跳ねるように歌って始まる。第2主題はウィンナ・ワルツ風で、こちらはヴィオラが口火を切る。同じくヴィオラが「ため息」の音調(第2部Op.60を参照)を含んで始める第2楽章は、ハンガリー風。間奏曲のような第3楽章を挟んで続く終楽章も、その基調はチャールダッシュだ。

## クラリネット三重奏曲 イ短調 Op.114

アレグロ / アダージョ / アンダンティーノ・グラツィオーソ / アレグロ

---

ブラームスが作曲をやめようかと考えたのは本場で、1891年には遺書まで書いている。仕事は十分にした、という気持ちもあったようだ。しかし創作の意欲がすっかり消えたわけではなかった。それを再燃させたのが、クラリネット奏者、リヒャルト・ミュールフェルトである。ドイツ中東部の町、マイニンゲンの宮廷楽団首席奏者で、ブラームスは同団の指揮者ハンス・フォン・ビューローおよびザクセン=マイニンゲン公との繋がりを通して知った。当時、同団はドイツの精鋭オーケストラだったのだ。本作と、次に聴くクラリネット五重奏曲、さらに2曲のクラリネット・ソナタOp.120(1894年)は、このミュールフェルトへの「あて書き」である。1891年にパート=イシュルで書かれた本作は、クラリネット、チェロ、ピアノという編成で、4楽章構成。要所所でカノン技法がものをいう作だが、全体はきわめて簡素に聞こえるだろう。

## クラリネット五重奏曲 ロ短調 Op.115

アレグロ / アダージョ / アンダンティーノ / コン・モート

---

ブラームスがミュールフェルトに惹かれたのは、この名人の兄によれば、「温かみのある表現、どこからでも滑らかに転調できる美しい音、息の使い方とそこから生じる極めて音楽的なフレージング」ゆえだったという。クラリネット&弦楽四重奏の編成をとる本作もOp.114と同じく1891年の作だが、三重奏曲に比べ「身ぶり」が大きい。第1楽章冒頭の、ロ短調とニ長調の間をためたうイントロは「萌芽」とも言うべきもので、本作の多くの主題はここから派生している。泣きの入った第2楽章は、ツィゴイナーふう。ハンガリー・タッチは、第3楽章のスケルツォにも、変奏曲様式の終楽章にもある。

本作完成の5年後、1896年に、ブラームスの盟友、クララ・シューマンが亡くなった。それから間もなく、ブラームス自身も体の不調を訴えるようになる。肝臓がんだった。そして翌年の4月3日。享年63にして、この世を去ったのだった。



© TAKAKI KUMADA

## Akiko Suwanai

### 諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON2022 芸術監督／ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリーザベト王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のガルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

### Akiko Suwanai (Violin / Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2022)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.



©Philipp Plum

## Mark Gothoni

### マーク・ゴトニ (ヴァイオリン)

フィンランドを代表するヴァイオリニストの1人。21歳でブラームス国際コンクールに上位入賞しデビュー。以来世界各国でソリスト、室内楽奏者として精力的に活動。母国フィンランドでは1998-2011年ラウマ音楽祭総監督、2001年よりサボンリンナ・ミュージック・アカデミーの室内楽部門監督を務める。2018年第1回「オーパス・クラシック(The OPUS KLASSIK)アワード 室内楽部門」受賞。コンサートヘボウ、ウィグモアホール、ヘラクレスザール、リンカーンセンター等、世界の名だたるホールのコンサートシリーズに招聘されるなど活発な演奏活動の傍らで、ベルリン芸術大学ヴァイオリン科主任教授として後身の指導にも情熱を傾けている。

### Mark Gothoni (Violin)

Finnish violinist Mark Gothoni studied with Ana Chumachenko, Shmuel Ashkenasi and Sandor Vegh. As prize-winner of several international competitions he is performing as chamber musician and soloist, while holding a post as professor at University of Arts in Berlin and teaching also at master classes around the globe. He served as concertmaster of the Zurich and Munich Chamber Orchestras and he performed frequently also as musical director of the European Union Chamber Orchestra. As first violinist of the Orpheus Quartet and member of the Mozart Piano Quartet he has a wide discography of which several have won international prizes.



©Hirota Onaka

## Kyoko Yonemoto

### 米元 響子 (ヴァイオリン)

1997年パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール(イタリア)において史上最年少13歳で入賞後、モスクワ・パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール優勝など数々の賞を受賞。これまで国内外の主要オーケストラと多数共演を重ねるほか、室内楽の分野でも高い評価を受けている。現在、マーストリヒト音楽院教授。CD「イザイ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」は文化庁芸術祭優秀賞受賞。使用楽器は1727年製のストラディヴァリウス(サントリー芸術財団より貸与)。

### Kyoko Yonemoto (Violin)

At the age of 13, Kyoko Yonemoto became the youngest-ever prizewinner at the 1997 Paganini Competition in Italy. She later received numerous prizes including first prize in the Paganini Moscow International Competition. In addition to appearing with major orchestras inside and outside Japan, Yonemoto has earned high praise as a chamber musician. She is currently a professor at the Maastricht Conservatorium in the Netherlands. Her CD Ysaÿe: Complete Sonatas for Violin received the Excellence Award a recipient of the Agency for Cultural Affairs. Kyoko Yonemoto plays a 1727 Stradivarius violin, on loan from the Suntory Foundation for Arts.



©山吹康男

## Miki Kobayashi

### 小林 美樹 (ヴァイオリン)

2011年ヴェニエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールにて第2位を受賞して一躍注目を集めた。2006年にはレオポルド・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクールにてギドン・クレーメル氏から審査委員特別賞を受賞。これまで国内主要オーケストラはもとより、ヴェンゲーロフ氏の指揮や彼から推薦を受けたポーランドの主要オーケストラとも共演している。宮崎国際音楽祭、鎌倉芸術館ソリストなどでも室内楽でも精力的に活動。2014年出光音楽賞を受賞。CDは4枚リリース。

### Miki Kobayashi (Violin)

In 2006, she was awarded with "Special Jury Prize" from Gidon Kremer at the 6th Leopold Mozart International Violin Competition. And she caught a great attention and popularity as a violinist after she won the 2nd Prize in Wieniawski International Violin Competition in October 2011. She played with the prestigious Orchestras in Japan and also collaborated with Maxim Vengerov and major Orchestras in Poland. She also very active as a Chamber musician at Miyazaki International Music Festival and Kamakura Art Center Solisten. In 2014, she was awarded "24th Idemitsu Music Award. She released 4 Recordings.



## 鈴木 康浩 (ヴァイオリン)

読売日本交響楽団ソロ・ヴァイオリン奏者。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。卒業後ヴァイオリンに転向。第47回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりドイツのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。またサイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍を続けている。

## Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. He began studying the violin at the age of five, and graduated from Toho Gakuen College of Music after studying at Toho Gakuen Music High School. After graduation, he changed instruments from the violin to the viola. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.

*Yasuhiro  
Suzuki*



©Hisashi Morifuji

## 田原 綾子 (ヴァイオリン)

東京音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール優勝。読響、東響、東京フィル、都響等と共に、室内楽奏者としても国内外の著名アーティストと多数共演するほか、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタインに師事。サントリー芸術財団よりPaolo Antonio Testoreを賞与されている。第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。

## Ayako Tahara (Viola)

Japanese violist Ayako Tahara, won the prize at Tokyo Music Competition and International Romania Music Competition. She performed the recital and the concertos for solist with many orchestra. As a chamber musician, she has performed with many great artists around the world. Tahara graduated with honors the Toho Gakuen College with Nobuo Okada and Hamao Fujiwara and Ecole Normale de Musique de Paris with Bruno Pasquier. And studying Hochschule für Musik Detmold with Veit Hertenstein. She has been awarded The Hotel Okura Music Award.

*Ayako  
Tahara*



## 村上 淳一郎 (ヴァイオリン)

桐朋学園にてヴァイオリンを店村真積氏、室内楽を山崎伸子、ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。トリエステ国際コンクール第1位、ヴィットリオ・グイ国際コンクール第1位。ケルン放送交響楽団ソロヴァイオリストに就任し、ゲヴァントハウス管、バイエルン放送響、バンベルク響等で客演首席奏者を務めた他、ヨーロッパ各地の音楽祭で室内楽奏者や独奏者として出演。2021年10月よりNHK交響楽団首席ヴァイオリン奏者。

## Jun-ichiro Murakami (Viola)

Jun-ichiro Murakami attended Toho Gakuen College of Music, studying viola with Mazumi Tanamura and chamber music with Nobuko Yamazaki and Miyoko Yamane-Goldberg. He was awarded 1st Prize at the Trieste International Competition. He also won 1st Prize in the Vittorio Gui International Competition in Florence. He assumed the post of solo violist with the WDR Symphony Orchestra Cologne. He has appeared as guest principal violist with the Gewandhaus Orchestra, Bavarian Radio Symphony Orchestra and Bamberg Symphony, among others, and has performed as a chamber musician and soloist in music festivals throughout Europe. He became principal violist with the NHK Symphony Orchestra in October 2021.

*Jun-ichiro  
Murakami*



©KING RECORDS

*Rei  
Tsujimoto*

## 辻本 玲 (チェロ)

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。公式サイト <http://www.rei-tsujimoto.com>

## Rei Tsujimoto (Cello)

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007. In 2009, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.



©ノゾアヒロミチ

*Kenji  
Nakagi*

## 中木 健二 (チェロ)

東京藝術大学を経て2003年に渡仏し、パリ国立高等音楽院、ベルン芸術大学の両校を首席で卒業。2005年ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位、2008年 Note et Bien 国際フランス音楽コンクール・グランプリなど、受賞多数。2010年より14年までフランス国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団の首席奏者を務める。帰国後はソリストとして活躍するほか、室内楽にも情熱を注いでいる。「J.S.バッハ: 無伴奏チェロ組曲全曲」(「レコード芸術」誌特選盤)他のCDをリリース。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京藝術大学音楽学部准教授。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されている1700年製ヨーゼフ・グアルネリ。

## Kenji Nakagi (Cello)

After studying at Tokyo University of the Arts, Kenji Nakagi moved to France in 2003 and graduated from Conservatoire de Paris (CNSMDP) and University of the Arts Bern, both with distinction. Nakagi won several international music competitions including Witold Lutoslawski International Cello Competition. A dedicated chamber musician, Nakagi has performed with great artists such as A. Chumachenko, B. Giuranna, C. Ivaldi, and E. Le Sage. He released CDs including J.S. Bach 6 Cello Suites. Kenji Nakagi is an associate professor at Tokyo University of the Arts. With the support of Yellow Angel (NPO), he plays on a cello by Joseph Guarneri of 1700.



©Sihoo Kim

*Michiaki  
Ueno*

## 上野 通明 (チェロ)

若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール、ブラームス国際コンクール、ジュネーヴ国際音楽コンクール優勝、ルトスワフスキ国際チェロコンクール第2位等、名だたる国際コンクールにて次々に実績を上げ、国内外のアーティスト、主要オーケストラと多数共演。岩谷時子賞奨励賞、青山音楽賞新人賞受賞。桐朋学園大学SDコース全額免除特待生として毛利伯郎氏に師事し、現在デュッセルドルフ音楽大学にてP.ウィスベルウエイ、エリザベート王妃音楽院にてG.ホフマンに師事し、更なる研鑽を積む。1758年製P.A. Testore(宗次コレクション)使用。

## Michiaki Ueno (Cello)

Michiaki Ueno has won 1st Prizes in the International Tchaikovsky Competition for Young Musicians, the Romanian International Music Competition, the Johannes Brahms International Competition, and the Geneva International Music Competition, as well as 2nd Prize in the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with many artists and orchestras both in Japan and overseas, earning favorable recognition. He has also been awarded the Iwatani Tokiko Incentive Award and the Aoyama Music Award New Face Award. Ueno studied with Hakuro Mori at the Toho Gakuen College Music Department, and currently studies with Pieter Wispelway at the Robert-Schumann-Hochschule Düsseldorf, Gary Hoffman at the Queen Elisabeth Music Chapel. A P.A. Testore cello has been loaned to him from the Munetsugu Collection.





©HIDEKI NAMAI

*Tomoki  
Sakata*

## 阪田 知樹 (ピアノ)

2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、6つの特別賞。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール最年少入賞。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンジャー国際ピアノオリンピック第1位及び聴衆賞。東京藝術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学ソリスト課程ピアノ科に在籍。コモ湖国際ピアノアカデミーでも研鑽を積む。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

### Tomoki Sakata (Piano)

Tomoki Sakata was awarded 4th Prize at The Queen Elisabeth Competition 2021. In the 2016 International Franz Liszt Piano Competition in Budapest, he won 1st Prize and six special prize, becoming the first Asian winner in the competition's history. In 2013, Sakata was the youngest finalist at the Van Cliburn International Piano Competition. He won the Grand Prix, Audience Prize and five other special prizes at the 35th PTNA Piano Competition; the Mozart Special Prize at the Cleveland International Piano Competition; and 1st Prize in the 2019 Kissinger KlavierOlymp. Based in Hannover and Yokohama, Tomoki Sakata received the city of Yokohama's Cultural Award and Art Encouragement Prize in 2017.



©Yuji Hori

*Yoko  
Kikuchi*

## 菊池 洋子 (ピアノ)

2002年第8回モーツァルト国際コンクールにおいて日本人として初めて優勝。その後、ザルツブルク音楽祭に出演するなど国内外で活発に活動を展開し、国内主要オーケストラとの共演をはじめ、ザルツブルク室内管、フランツ・リスト室内管、南西ドイツフィルハーモニー、ベルリン響等と共演。バレエとのコラボレーション公演にも出演し、CD録音も活発に行う。前橋市Presents 舞台芸術祭芸術監督。2007年第17回出光音楽賞受賞。

### Yoko Kikuchi (Piano)

In 2002, Yoko Kikuchi won the first prize at the International Mozart Competition, since then she has performed not only in Japan but also in Europe and has been one of the leading pianists in Japan. She has performed with Mozarteum Orchestra Salzburg, Salzburg Chamber Orchestra, Franz Liszt Chamber Orchestra, Berliner Symphoniker and others as well as Japanese major orchestras. She also participated in several music festivals including Salzburg Festival. She has recently collaborated with classical ballet dancers and has released a lot of CDs. In 2007, she received the 17th Idemitsu Music Award. She is currently an artistic director of Maebashi Civic Cultural Hall.



©池上夢貴

*Ryoma  
Takagi*

## 高木 竜馬 (ピアノ)

2018年第16回エドヴァルド・グリーグ国際ピアノコンクールにて優勝及び聴衆賞を受賞し、世界的に脚光を浴びる。他にも7つの国際コンクールで優勝。その後、3回に亘る東京フィルとの共演、オスロ・フィルとの共演、ウィーン楽友協会等でのリサイタルなど、日本とウィーンを拠点に多方面で活躍。NHK総合テレビ『ピアノの森』では雨宮修平メインピアニスト役で出演し、『題名のない音楽会』『ちららクラシック』等々、メディアへの出演多数。故エレナー・アッシュケナージ、故中村絨子、ミハエル・クリスト、ボリス・ベトルジャンスキー、アンナ・マリコヴァの各氏に師事。

### Ryoma Takagi (Piano)

In September 2018, Ryoma Takagi won the 1st prize and audience prize at The 16th Grieg International Competition. He has performed at important venues around the world such as Musikverein Golden Hall, Moscow Conservatory Great Hall, Kremlin Palace, Ukraine National Opera Theater, Wiener Konzerthaus, Schoenbrunn Palace, Roma Tetro Valle, Suntory Hall, Yokohama Minatomirai Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, Hamamatsu Act City, Tokyo Metropolitan Theatre, etc. He has also performed with the Oslo Philharmonic Orchestra, Bergen Philharmonic Orchestra, Vienna Chamber Orchestra, Kiev National Philharmonic Orchestra, Tokyo Philharmonic Orchestra, Osaka Symphony Orchestra, Kanagawa Philharmonic Orchestra, Gunma Symphony Orchestra, and Tokyo Symphony Orchestra.

## < 葵トリオ Aoi Trio >



©Nikolaj Lund

*Kosuke  
Akimoto*

### 秋元 孝介 (ピアノ)

東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。第2回ロザリオ・マルシアーノ国際ピアノコンクール第2位、第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール特別賞などを受賞。各地でソロリサイタルを開くほか、オーケストラとの共演や室内楽公演、アウトリーチ活動も積極的にを行っている。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。現在は東京藝術大学大学院博士課程に在籍しながら日本とドイツで演奏活動を行っている。

### Kosuke Akimoto (Piano)

Kosuke Akimoto was born in 1993 at Hyogo, Japan. He won the 2nd prize at the International Rosario Marciano Piano Competition in 2010, the Special prize at the International Paderewski Piano Competition in 2016. And he won the 1st prize at the ARD International Music Competition Munich in 2018 as the Aoi Trio. Akimoto has released the CD which is including "Rite of Spring" performing with his teacher Hiroshi Arimori and it got numerous acclaims in the record magazine. His activity includes solo recital, chamber music, performance with orchestra and community program in many cities. He got the bachelor and master degree at the Tokyo University of the Arts and is currently studying at the University of Music and Performing Arts Munich.



©Nikolaj Lund

*Kyoko  
Ogawa*

### 小川 響子 (ヴァイオリン)

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。第10回東京音楽コンクール第1位、聴衆賞を受賞。国内の多くのオーケストラと協演するほか、小澤征爾、アンネ・ゾフィ・ムター、原田幸一郎、磯村和英、池田菊衛、小山実稚恵、山崎伸子、川本嘉子と共演。サイトウ・キネン・オーケストラに参加。サントリーホール室内楽アカデミー第3期、第4期フェロー。2021年4月までベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーに在籍。

### Kyoko Ogawa (Violin)

Kyoko Ogawa was born in 1992 and graduated from Tokyo University of the Arts. She won 1st prize and audience award at the 10th Tokyo Music Competition, Career Development Award at the Banff International String Quartet Competition 2016 and 1st prize at the 67th ARD Munich International Music Competition as Aoi Trio. She has performed as a soloist with the Tokyo Symphony Orchestra, the New Japan Philharmonic Orchestra and other orchestras in Tokyo. She participated in the Ozawa International Chamber Music Academy in Okushiga, the Zermatt Music Festival and the Saito Kinen Orchestra. Her past co-artists as soloist includes Seiji Ozawa and Anne-Sophie Mutter. She was honored to join Karajan Academy of Berlin Philharmonic till April 2021, and currently studying at the University of Music and Theater in Munich.



©Nikolaj Lund

*Yu  
Ito*

### 伊東 裕 (チェロ)

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程修了。第77回日本音楽コンクールチェロ部門第1位、徳永賞を受賞。関西フィル、日本センチュリー響、神戸市室内合奏団、藝大フィルなどと共演。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、小澤征爾音楽塾オーケストラ、武生国際音楽祭、北九州国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭などに参加。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。

### Yu Ito (Cello)

Yu Ito was born in Nara Japan 1992 and began to learn cello when he was six. After studying under Tatsuo Saito, he learned at Tokyo University of the Arts where he graduated as the top student under Nobuko Yamazaki and Kenzi Nakagi. After graduated he studied with Enrico Bronzi at Mozarteum University Salzburg. He is is currently studying at the University of Music and Performing Arts Munich. His achievements at competitions include 1st prize at ARD International Music Competition in 2018 as Aoi Trio, Banff International String Quartet Competition in 2016, Pablo Casals International Cello Competition in 2014 and 1st prize at Music Competition of Japan in 2008. As a soloist, Yu has collaborated with Tokyo Philharmonic Orchestra, Kansai Philharmonic Orchestra, Japan Century Symphony Orchestra. He is a member of Kioi Hall Chamber Orchestra Tokyo.



©読響

*Taira  
Kaneko*

## 金子 平 (クラリネット)

1984年埼玉県生まれ。東京藝術大学を経て、2012年独リユベック国立音楽大学院卒業。クラリネットを半田裕一、山本正治、村井祐児、ザビーネ・マイヤーの各氏に師事。2006年日本音楽コンクール1位受賞。2008年ミュンヘン国際音楽コンクール3位入賞。NHK FMリサイタル・ノヴァ、B→Cリサイタルシリーズ、木曾音楽祭に出演。現在、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー、読売日本交響楽団首席クラリネット奏者。

### Taira Kaneko (Clarinet)

Taira Kaneko was born in Saitama Prefecture in 1984. After attending Tokyo University of the Arts, he graduated from the Hochschule für Musik Lübeck (Germany) in 2012. He studied clarinet with Yuichi Handa, Masaharu Yamamoto, Yuji Murai and Sabine Meyer. Kaneko won 1st prize at the Japan Music Competition in 2006 and 3rd prize at the ARD International Music Competition in 2008. He has appeared in the NHK-FM program "Recital NOVA," the "B→C Recital Series," and the Kiso Music Festival. Currently, Kaneko is a member of Koi Hall Chamber Orchestra Tokyo and principal clarinetist of Yomiuri Nippon Symphony Orchestra.

---



*Takeshi  
Hidaka*

## 日高 剛 (ホルン)

長崎大学を卒業後、東京藝術大学、オランダ・マーストリヒト音楽院にてホルンを学ぶ。2000～13年、広島交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、NHK交響楽団ホルン奏者を歴任した。現在、東京藝術大学准教授。国立音楽大学、昭和音楽大学非常勤講師、日本センチュリー交響楽団首席客演奏者、新日本フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者を務める。

### Takeshi Hidaka (Horn)

After graduating with a degree in economics from Nagasaki University, Mr. Hidaka went on to study horn at the Tokyo University of the Arts and Conservatorium Maastricht in the Netherlands. During the period from 2000 to 2013, He was a member of Hiroshima Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, and NHK Symphony Orchestra, Tokyo as a Hornist. In April of 2013, Mr. Hidaka became an associate professor at the Tokyo University of the Arts. He is also on faculty at Kunitachi College of Music, Showa College of Music. Since 2019, He is became a member of Japan Century Symphony Orchestra as a Guest Principal hornist and principal horn of New Japan philharmonic.

---